



9月に行われた理学療法学科の学生と全国パーキンソン病友の会北海道支部との交流イベントの様子

福祉マネジメント学科の現在とこれから



福祉マネジメント 学科長 志水 幸

看護福祉学部福祉マネジメント学科は、令和4年度より臨床福祉学科から名称変更いたしました。福祉マネジメント学科は、平成5年度の看護福祉学部設置時に、医療福祉学科（医療福祉専攻/臨床心理専攻）として設置されました。平成14年度の心理科学部独立・設置に伴い、医療福祉専攻は、高度専門職を明示すべく臨床福祉学科へと名称を変更いたしました。また、平成20年度よりヒューマンケアを担う人材養成の教育理念のもと、福祉専門職養成（社会福祉士、精神保健福祉士及び介護福祉士）に加え、新たな教職課程（高等学校福祉、公民、特別支援学校）を開設いたしました。その後、平成26年度にはスクールソーシャルワーカー養成課程を開設し、令和2年度には初級障害者スポーツ指導員の養成を開始いたしました。

学科名称の変更にあたり、履修モデルとしてのコース制も従来の3コース（保健福祉臨床、精神保健福祉、介護福祉）から4コース（ソーシャル・マネジメント、メンタルヘルス・マネジメント、ケア・マネジメント、スポーツ・マネジメント）へと拡充いたしました。併せて、教育・研究の管理運営体制についても、従来の3講座（社会福祉学、精神保健福祉学、介護福祉学）から、新たに教育福祉学講座を設置し4講座制により各コースの学生支援を行なっております。

さて、社会保障制度政策の観点からみれば、わが国の喫緊の課題の一つは、地域共生社会の実現です。そのためには、

従来の資格教育に特化した専門職養成教育の限界を超えた、いわば専門性や実践フィールドを拡張する教育・研究が求められています。そこで、各コースでは、基礎となる国家資格取得のための教育の上に、様々な教育機会を積み上げることによって当該フィールドにおける多職種連携・地域連携のリーダーとして活躍するためのマネジメント能力を修得いたします。

本学では、学科を含め様々な自治体や社会福祉法人との連携協定を締結してまいりました。その一環として、本学科は地元自治体の介護保険事業計画（高齢者保健福祉計画）、障がい福祉計画（障がい者基本計画、障がい福祉計画、障がい児福祉計画）、地域福祉計画の策定業務を受託してまいりました。学科では、この策定業務を重要な教育機会と位置付け、教員と学生との協働によるヒアリング（地域住民・サービス事業者等を対象）を開催する等、現実の地域を学びの場とした教育を行なっております。また、今年度から、プロジェクト演習・研究の内容を前倒し運用している専門演習では、学生と教員が様々な地域に入り、そこから課題を発見し、解決のための企画を立案し、実施・評価する教育活動が開始されました。

これまでの福祉専門職の枠を越えて新たな地域社会の創出に貢献できる人材養成を行ってまいりますので、今後とも皆様のご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS

福祉マネジメント学科の現在とこれから	1
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
白井一幸氏が客員教授に就任	
2022年度入試結果報告	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
多職種連携・ 全学連携地域包括ケア実践演習 実施報告	6
イベント開催報告	8
株式会社 北海道医療大学 パートナーズを設立しました。 大学院医療技術科学研究科を開設します。 2023年度から、 「特待奨学生」制度は全学部・学科を 対象に大幅に拡充します。	10
OG訪問[看護学科]	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	

教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介

新規選出教員役職者

総合図書館長 越智 守生	薬学部 学生部長 浜上 尚也 教務部副部長 中川 宏治 学生部副部長 小島 弘幸	心理科学部 教務部副部長 本谷 亮 学生部副部長 金澤 潤一郎
-----------------	---	---------------------------------------

新任教員



歯学部 講師
中谷 温紀 (なかにたに あつし)
大阪大学歯学部歯学科卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。大阪大学歯学部附属病院放射線科医員、大阪大学大学院歯学研究科放射線学助教、梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科歯科放射線学非常勤講師を経て、本学就任。歯学博士。



看護福祉学部 教授
桑原 ゆみ (くわばら ゆみ)
千葉大学看護学部看護学科卒業。本学大学院看護福祉学研究科看護学専攻修士課程、千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。千葉大学医学部附属病院看護部、本学看護福祉学部看護学准教授、札幌医科大学保健医療学部看護学准教授、株式会社ルン訪問看護を経て、本学就任。看護学博士。



看護福祉学部 准教授
宮本 雅央 (みやもと まさお)
本学看護福祉学部医療福祉学科卒業。同大学院看護福祉学研究科臨床福祉学専攻修士課程修了。同大学院院研究生。秋田看護福祉大学看護福祉学部福祉学助教、群馬医療福祉大学社会福祉学部福祉学准教授、青森県立保健大学健康科学部社会福祉学准教授を経て、本学就任。臨床福祉学修士。

薬学部	助教(生命物理学(放射薬品化学))	三浦 桃子
歯学部	助教(口腔機能修復・再建学系(歯周歯内治療学))	柳瀬 舜佑
	助教(口腔構造・機能発育学系(組織学))	佐藤 幸平
	助教(口腔生物学系(生理学))	イスラム ソヨッドトウフィクル
	助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	土田 大
	助教(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))	スニガエレディア エンリケエストラ
	特別研究員(歯学研究科)	アルタンヒシグ バヤーチメグ
	特別研究員(歯学研究科)	ギリ サリタ
	助教(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))	横関 健治
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(口腔制御治療学))	塩見 浩太
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	望月 開斗
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	清淵 匡平
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(咬合再建補綴学))	最上 真琴
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学))	河原 昌俊
	任期制助手(生体機能・病態学系(歯科麻酔科学))	郷 賢治
	任期制助手(生体機能・病態学系(歯科麻酔科学))	藤田 尚正
	任期制助手(生体機能・病態学系(高齢者・有病者歯科学))	飯田 健司
	任期制助手(口腔構造・機能発育学系(小児歯科学))	川野 修嗣
	任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進保存学))	大谷 万由子
看護福祉学部	助教(看護学専攻生涯発達看護学)	谷本 真唯
	助教(看護学専攻基礎・統合看護学)	表山 知里
	助教(看護学専攻基礎・統合看護学)	松浦 詠子
心理科学部	助教(臨床心理学)	山下 佳久
リハビリテーション科学部	助手(言語聴覚療法学)	上山 智美
予防医療科学センター	助教(医学部門)	吉川 一平

昇任教員



看護福祉学部 講師
高木 由希 (たかぎ ゆき)
本学看護福祉学部看護学科卒業。同大学院看護福祉学研究科成人看護学専攻修士課程修了。北海道大学病院看護部、同専任シビレセンターコーディネーター、本学看護福祉学部看護学専攻任期制助教、同看護福祉学部看護学助教を経て、講師昇任。看護学修士。



リハビリテーション科学部 講師
葛西 聡子 (かさい さとこ)
北海道武蔵女子短期大学教養学科、札幌医療科学専門学校言語聴覚士科卒業。本学大学院心理科学研究科言語聴覚学専攻修士課程修了。医療法人社団櫻井耳鼻咽喉科クリニック、北海道大学病院診療支援部耳鼻咽喉科、本学心理科学部助教、同リハビリテーション科学部助教を経て、講師昇任。言語聴覚学修士。



全学教育推進センター 准教授
併任先:薬学部(数学・統計学)
原田 潤平 (はらだ じゅんぺい)
広島大学理学部物理学卒業。同大学院理学研究科物理学専攻修士課程前期、同大学院理学研究科物理学専攻修士課程後期修了。東京大学中核研究特別研究員、国立新居浜工業高等学校数理科准教授、本学薬学部講師を経て、准教授昇任。理学博士。



全学教育推進センター 講師
併任先:心理科学部 講師(情報科学)
西牧 可織 (にしまき かおり)
北海道国大学工学部電子情報工学科卒業。北海道大学大学院情報科学研究科情報工学科ロニクス専攻修士課程、同大学院情報科学研究科情報工学科ロニクス専攻博士課程修了。北海道大学大学院情報科学研究科リサーチアシスタント、本学心理科学部助教を経て、講師昇任。情報科学博士。



歯学部 准教授
六車 武史 (むぐるま たけし)
本学歯学部卒業。本学歯学部附属病院研修歯科医、同病院助手、同歯学部助手、同助教、同講師を経て、准教授昇任。歯学博士。



歯学部 講師
中尾 友也 (なかお ゆうや)
本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学歯科内科クリニック研修歯科医、同臨床助手、同特別研究員、同歯学部任期制助手、同助教を経て、講師昇任。歯学博士。

白井一幸氏が客員教授に就任

企業研修講師でプロ野球解説者(2023年WBC侍ジャパンヘッドコーチ、元北海道日本ハムファイターズ1軍内野手走塁コーチ兼作戦担当)の白井一幸氏が、2022年8月1日付で本学客員教授に就任いたしました。

本学は薬剤師・歯科医師・看護師などの医療人を養成する、6学部9学科を擁する北海道最大の医療系総合大学です。「知育・徳育・体育の三位一体の教育」を建学の理念として1974年に設立され、ほぼ半世紀にわたり、若くて行動力にあふれた医療人を世に送り出してきました。今、医療の現場や大学を取り巻く環境は大きく変化しています。大学もまた社会の変化に対応し、対応していかななくてはなりません。白井氏のこれまで培われた多様なご経験や知識を、ぜひ、本学の学生支援、教職員の資質向上や人材育成などに活かしていただきたいと思います。今後は全学部学生の講義、教職員向け研修会講師等に携わっていただく予定です。



白井一幸氏のコメント



多くの医療人を輩出し、社会に多大な貢献をされている大学の一員として、人材育成に携われることは何よりの喜びです。長年のプロ野球界の指導者や企業研修講師として、また北海道のカーリングチームやバスケットチームの「チームビルディング」や人材育成をしてきた経験を活かして、更なる大学の発展と社会貢献ができる人材の輩出に全力を尽くして取り組んでまいります。

白井氏HP | <https://www.kazu-shirai.com/>

2022年度 入試 結果報告

本年度の志願者数は
4,285名

本年度入試の志願者総数は、4,285名となりました。
志願者の最も多かった学科は看護学科969名で、次に
薬学部704名という結果でした。

編入学試験の
志願総数は21名

本学全体では21名が編入学を
志願しました。うち9名が入学し、実
質競争倍率は2.3倍でした。

専門学校志願者の
約8割がAO方式入試を利用

毎年志願者の多くがAO方式入試を
利用しています。AO方式入試の志願者
は27名で、全体の約82%を占めました。

2022年度入試結果

		薬学部	歯学部	看護福祉学部		心理科学部	リハビリテーション科学部			医療技術学部	歯学部附属歯科 衛生士専門学校
		薬学科	歯学科	看護学科	福祉 マネジメント 学科	臨床心理 学科	理学療法 学科	作業療法 学科	言語聴覚 療法学科	臨床検査 学科	歯科衛生科
総合型選抜 ※歯科衛生士科 …AO入試	志願者数	23名	19名	32名	9名	13名	40名	14名	13名	30名	27名
	受験者数	23名	19名	32名	9名	13名	40名	14名	13名	30名	27名
	合格者数	23名	17名	12名	9名	13名	22名	14名	13名	14名	27名
	入学者数	23名	16名	12名	5名	12名	22名	14名	12名	14名	27名
	実質倍率	1.0倍	1.1倍	2.7倍	1.0倍	1.0倍	1.8倍	1.0倍	1.0倍	2.1倍	1.0倍
学校推薦型選抜 (一般) ※歯科衛生士科 …推薦入試(一般)	志願者数	1名	0名	28名	0名	1名	17名	9名	4名	20名	1名
	受験者数	1名	0名	28名	0名	1名	17名	9名	4名	20名	1名
	合格者数	0名	0名	26名	0名	1名	13名	7名	4名	15名	1名
	入学者数	0名	0名	26名	0名	1名	13名	7名	4名	15名	1名
	実質倍率	1倍	1倍	1.1倍	1倍	1.0倍	1.3倍	1.3倍	1.0倍	1.3倍	1.0倍
学校推薦型選抜 (指定校特別) ※歯科衛生士科 …推薦入試 (指定校特別)	志願者数	49名	5名	27名	26名	35名	19名	12名	29名	9名	4名
	受験者数	49名	5名	27名	26名	35名	19名	12名	29名	9名	4名
	合格者数	49名	5名	27名	26名	35名	19名	12名	29名	9名	4名
	入学者数	48名	5名	26名	22名	35名	19名	12名	29名	9名	4名
	実質倍率	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍	1.0倍
一般選抜(前期) ※薬学部・歯学部 のみ、2日目には 外国人留学生 特別選抜を含む ※歯科衛生士科 …一般入試	1日目	149名	70名	245名	44名	54名	96名	91名	47名	86名	1名
	2日目	98名	58名	202名	40名	53名	83名	91名	48名	81名	0名
	3日目	94名	45名	187名	35名	56名	57名	79名	43名	81名	0名
	1日目	142名	66名	238名	42名	53名	96名	89名	46名	86名	1名
	2日目	90名	53名	191名	38名	51名	80名	87名	46名	77名	0名
	3日目	82名	42名	174名	31名	52名	52名	74名	39名	81名	0名
	合格者数	201名	101名	135名	57名	76名	65名	96名	60名	56名	1名
	入学者数	51名	37名	42名	17名	5名	29名	12名	3名	20名	0名
	実質倍率	1.6倍	1.6倍	4.5倍	1.9倍	2.1倍	3.5倍	2.6倍	2.2倍	4.4倍	1.0倍
	1日目	34名	38名	38名	16名	14名	32名	22名	14名	43名	0名
一般選抜(後期)	2日目	32名	32名	36名	15名	13名	31名	21名	13名	40名	0名
	3日目	28名	31名	11名	15名	13名	4名	2名	12名	4名	0名
	入学者数	11名	9名	7名	6名	0名	0名	2名	1名	1名	0名
	実質倍率	1.1倍	1.0倍	3.3倍	1.0倍	1.0倍	7.8倍	10.5倍	1.1倍	10.0倍	0名
	共通テスト 利用選抜(前期A)	志願者数	169名	67名	145名	33名	58名	77名	75名	35名	93名
共通テスト 利用選抜(前期B)	受験者数	169名	67名	145名	33名	58名	77名	75名	35名	93名	0名
	合格者数	140名	58名	50名	27名	54名	36名	42名	27名	22名	0名
	入学者数	22名	5名	3名	5名	6名	9名	6名	5名	7名	0名
	実質倍率	1.2倍	1.2倍	2.9倍	1.2倍	1.1倍	2.1倍	1.8倍	1.3倍	4.2倍	0名
	1日目	70名	30名	47名	32名	48名	42名	35名	34名	40名	0名
共通テスト 利用選抜(後期)	2日目	70名	30名	47名	32名	48名	42名	35名	34名	40名	0名
	3日目	63名	24名	22名	28名	44名	20名	20名	33名	10名	0名
	入学者数	5名	1名	0名	3名	9名	3名	3名	2名	3名	0名
	実質倍率	1.1倍	1.3倍	2.1倍	1.1倍	1.1倍	2.1倍	1.8倍	1.0倍	4.0倍	0名
	1日目	17名	10名	17名	6名	14名	12名	12名	8名	8名	0名
社会人特別選抜	2日目	17名	10名	17名	6名	13名	12名	12名	8名	8名	0名
	3日目	15名	10名	4名	6名	13名	3名	2名	8名	2名	0名
	入学者数	7名	0名	3名	1名	3名	1名	0名	3名	0名	0名
	実質倍率	1.1倍	1.0倍	4.3倍	1.0倍	1.0倍	4.0倍	6.0倍	1.0倍	4.0倍	0名
	志願者数	0名	0名	1名	0名	1名	0名	0名	0名	1名	0名
TOTAL	受験者数	0名	0名	1名	0名	1名	0名	0名	0名	1名	0名
	合格者数	0名	0名	0名	0名	1名	0名	0名	0名	1名	0名
	入学者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	実質倍率	0倍	0倍	0倍	0倍	1.0倍	0倍	0倍	0倍	1.0倍	0倍
	志願者数	704名	342名	969名	241名	347名	475名	440名	275名	492名	33名
受験者数	675名	324名	936名	232名	339名	466名	428名	267名	485名	33名	
合格者数	519名	246名	287名	168名	250名	182名	195名	186名	133名	33名	
入学者数	167名	73名	119名	59名	71名	96名	56名	59名	70名	32名	
実質倍率	1.3倍	1.3倍	3.3倍	1.4倍	1.4倍	2.6倍	2.2倍	1.4倍	3.6倍	1.0倍	

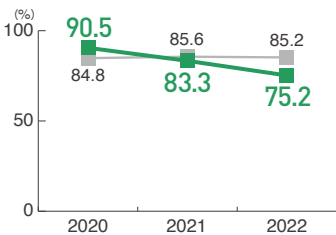
薬学部

〈第107回 薬剤師国家試験〉

全卒業生6,335名の97.3%が
薬剤師免許を取得。

2022年2月、第107回薬剤師国家試験が行われました。本学からは新卒者133名が受験し、合格者は100名。合格率は75.2%となりました。なお、本学薬学部卒業生総数6,335名の97.3%にあたる6,161名が薬剤師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



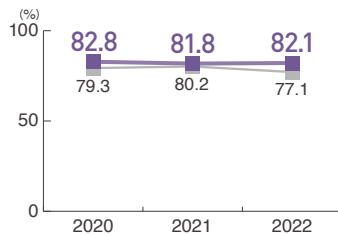
歯学部

〈第115回 歯科医師国家試験〉

全卒業生3,426名の98.1%が
歯科医師免許を取得。

2022年1月、第115回歯科医師国家試験が行われました。本学からは新卒者56名が受験し、合格者は46名。合格率は82.1%と全国平均を上回りました。なお、本学歯学部卒業生総数3,426名の98.1%にあたる3,362名が歯科医師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



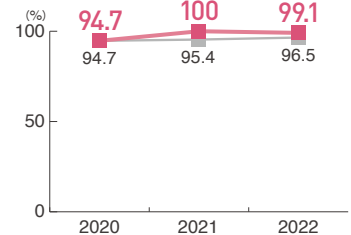
看護福祉学部 / 看護学科

〈第111回 看護師国家試験〉

全卒業生2,759名の99.1%が
看護師免許を取得。

2022年2月、第111回看護師国家試験が行われました。本学からは新卒者115名が受験し、合格者は114名。合格率は99.1%となりました。なお、卒業生総数2,759名の99.1%にあたる2,735名が看護師免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



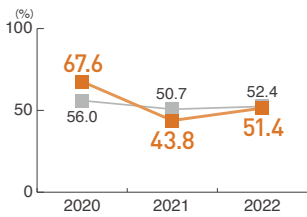
看護福祉学部 / 福祉マネジメント学科

安定した国家資格の取得率。
介護福祉士の新卒合格率は100%

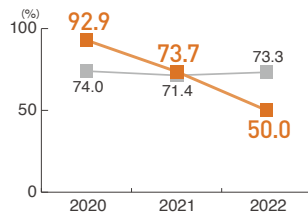
第34回社会福祉士国家試験の本学新卒合格率は51.4%、第24回精神保健福祉士国家試験は50.0%でした。第34回介護福祉士国家試験では、100%の新卒合格率を達成しました。

〈第34回 社会福祉士国家試験〉 〈第24回 精神保健福祉士国家試験〉 〈第34回 介護福祉士国家試験〉

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



■ 本学合格率(2022年 新卒)

100%
[養成施設全国平均65.3%]

心理科学部 / 臨床心理学科

〈第4回 公認心理師国家試験〉

日本の心理職で初となる
国家資格「公認心理師」試験に向けて。

2017年に公認心理師法が施行され、2018年9月に初めての国家試験が実施されました。本学は2018年度入学生から養成カリキュラムを開始。卒業後は心理学系大学院等を修了するか、臨床現場で一定期間以上の実務経験で受験資格が得られます。

※本学大学院は公認心理師の受験資格取得に対応しています。

■ 本学合格率(2021年 本学大学院修了生)

100%
[全国平均58.6%]

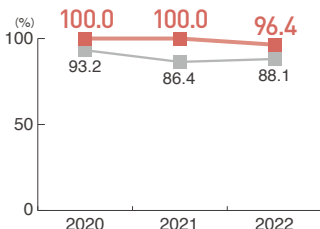
リハビリテーション科学部 / 理学療法学科

〈第57回 理学療法士国家試験〉

毎年高水準を維持している
新卒合格率。

2022年2月、第57回理学療法士国家試験が行われました。本学からは新卒者83名が受験し、合格者は80名。合格率は96.4%となりました。また、卒業生総数471名の99.4%にあたる468名が理学療法士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



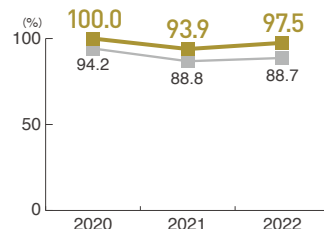
リハビリテーション科学部 / 作業療法学科

〈第57回 作業療法士国家試験〉

6年連続で、全国平均を上回る
新卒合格率を維持。

2022年2月、第57回作業療法士国家試験が行われました。本学からは新卒者40名が受験し、合格者は39名。合格率は97.5%となりました。また、卒業生総数230名の98.7%にあたる227名が作業療法士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



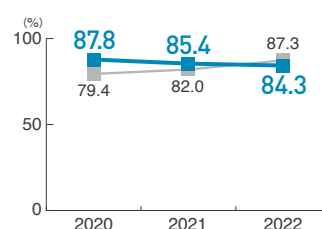
リハビリテーション科学部 / 言語聴覚療法学科

〈第24回 言語聴覚士国家試験〉

安定した合格率。全卒業生958名の
93.3%が言語聴覚士免許を取得。

2022年2月、第24回言語聴覚士国家試験が行われました。本学からは新卒者51名が受験し、合格者は43名。合格率は84.3%でした。なお、本学科の全卒業生958名のうち、93.3%にあたる894名が言語聴覚士免許を取得しています。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



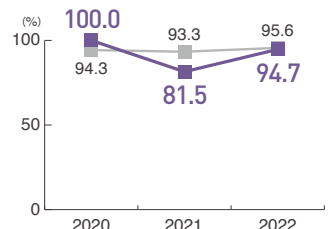
歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈第31回 歯科衛生士国家試験〉

歯科衛生士国家試験は
開校以来、資格取得率99.8%!

本校卒業生は開校以来、2022年3月卒業の36期生まで、99.8%と高い国家資格取得率を堅持しています。また、本校は文部科学省の定める一定の基準を満たした専門学校なので、卒業すると「専門士」の称号が与えられます。

■ 本学合格率の推移(新卒のみ過去3年)



就職状況 結果報告

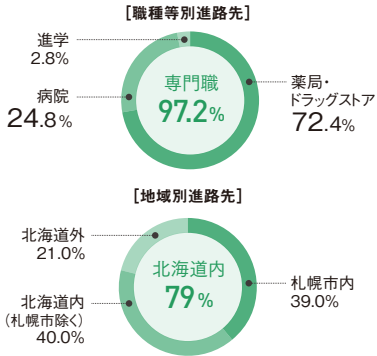
本学卒業生への評価の高さが、求人の質・量に直結。
より深い知識修得をめざし大学院へ進学する人も。

薬学部

2,000人を超える求人数。
卒業生は総合病院や調剤薬局などへ。

■2022年3月
卒業生の就職先

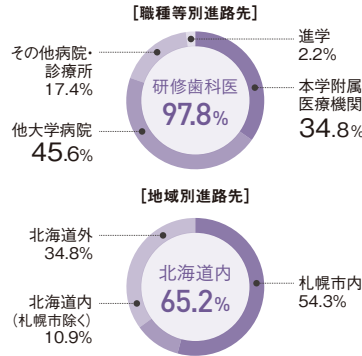
求人数	薬剤師……………2,253人 MR・研究・開発職…180人
-----	----------------------------------



歯学部

卒業後は、臨床能力の向上をめざし、
研修歯科医の道へ。

■2022年3月
卒業生の就職先

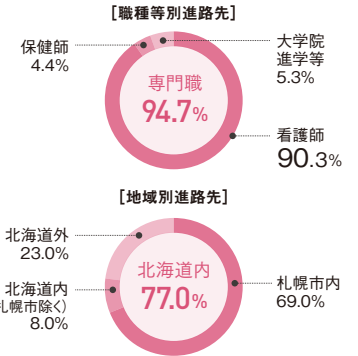


看護福祉学部／看護学科

札幌と首都圏を中心に、
全国の総合病院へ就職。

■2022年3月
卒業生の就職先

求人数	看護師等……………7,326人
-----	-----------------

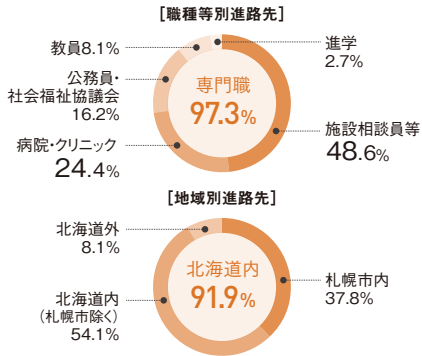


看護福祉学部／福祉マネジメント学科

施設や病院のほか、公務員、教員、一般企業と
さまざまな分野で活躍。

■2022年3月
卒業生の就職先

求人数	医療機関相談員……………376人 福祉施設相談員・ 介護職員等……………1,823人 一般事務・その他……………6,691人
-----	---

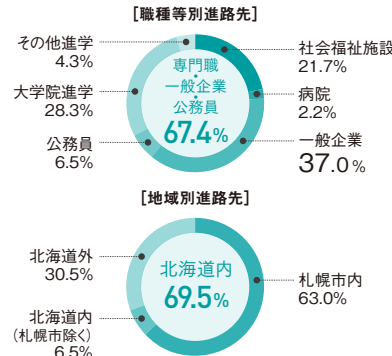


心理科学部／臨床心理学科

業界や業種を問わず、多彩な分野へ就職。
約3割が公認心理師をめざし大学院へ進学。

■2022年3月
卒業生の就職先

求人数	心理職……………117人 一般事務・その他…6,691人
-----	---------------------------------

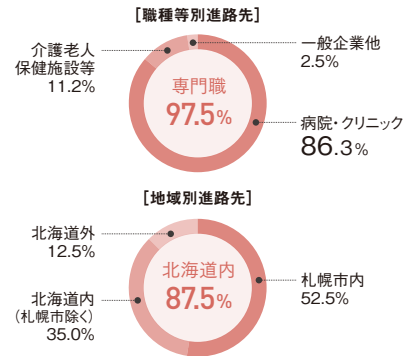


リハビリテーション科学部／理学療法学科

9割以上の卒業生が、
病院・クリニックへ就職。

■2022年3月
卒業生の就職先

求人数	理学療法士……………2,604人
-----	------------------

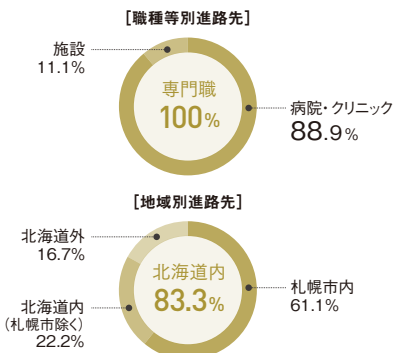


リハビリテーション科学部／作業療法学科

2,000人以上の求人数が寄せられ、
病院・クリニック・施設へ就職。

■2022年3月
卒業生の就職先

求人数	作業療法士……………2,177人
-----	------------------

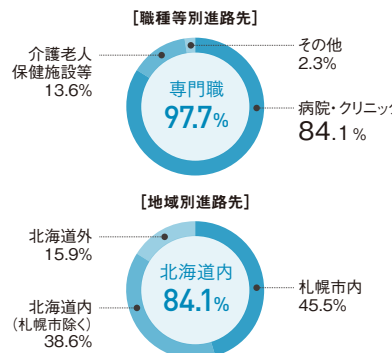


リハビリテーション科学部／言語聴覚療学科

8割以上が病院の言語聴覚士に。
全国各地で活躍しています。

■2022年3月
卒業生の就職先

求人数	言語聴覚士……………1,305人
-----	------------------

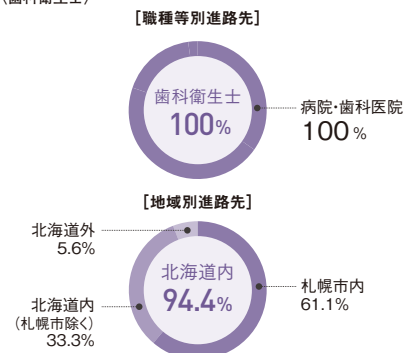


歯学部附属歯科衛生士専門学校

36期連続で、
就職率100%を達成。

■2022年3月
卒業生の就職先
(歯科衛生士)

求人数	歯科衛生士……………792人
-----	----------------



多職種連携を体験的に学ぶ 「全学連携地域包括ケア実践演習」が、 はじめて実施されました。

8月3日(水)～5日(金)の3日間にわたって行われた「全学連携地域包括ケア実践演習」に、各学部学科の学生、大学院生、歯学部附属歯科衛生士専門学校の生徒が22名参加。本学の多職種連携教育をさらに進化させる科目として、2020年度からスタートする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、3年越しでの実施となりました。学生たちが取り組んだ課題は、事例紹介シートをもとに利用者さんへの質問内容を考えること、利用者さんの実際の言葉を聞いたうえで支援を考えること、そして、考えた支援内容を発表すること。コーディネーターを務めた安部博史教授に、科目の目的や意義から学生たちの反応まで詳しくお話を伺いました。

高学年の学生に、多職種連携の体験を。

多職種連携は、1960年代のイギリスの地域ケア、児童福祉、精神保健などの分野から同時に生まれた概念といわれています。究極的な目標は、患者さん・サービス利用者さん、ご家族、そして地域社会の健康・幸福感の向上といわれていますが、現代の保健・医療・福祉で多職種連携が必要な理由は大きく3点。患者さん中心の治療・ケアを実現するため、超高齢社会をはじめ社会の変化に対応するため、そして、医療の高度化・細分化によるマイナス面を解消するためです。また、多職種連携教育で重要なのは、学生の相互作用。英国専門職連携推進センター(CAIPe)は、多職種連携教育を「2つ以上の専門職がお互いについて学び、相手から学び、共に学ぶこと」と定義しています。

本学では、全学部学科合同のグループワークを行う1年次「多職種連携入門」をはじめ、保健・医療・福祉の多彩な教育資源を生かした多職種連携教育を展開してきました。そして、その教育内容をさらに体系化し、臨床現場で必要な能力を強く実感してもらうために、高学年の学生たちが多職種連携をリアルに体験できる機会の創出が必要と



札幌あいの里キャンパスの本学地域包括ケアセンター。今回の演習は、在宅ケアを提供する専門職と実際の利用者さんのご協力によって実現しました。

考えていました。その機会こそが、「全学連携地域包括ケア実践演習」。異なる分野を学ぶ仲間がお互いを理解し、患者さんのために連携する重要性を実践的に学ぶための科目です。

各学部学科の学生はもちろん、大学院生や歯科衛生士専門学校の生徒も参加。学生22名に対して、サポートする教員・専門職が20名と、ほぼマンツーマンの手厚い指導体制を整備しました。学生たちが3日間で取り組んだ課題は、事例紹介シートをもとに利用者さんへの質問内容を考えること、利用者さんの実際の言葉を聞いたうえで支援を考えること、そして、考えた支援内容を発表すること。学部学科などが混成の3チームに分かれ、ディスカッションを行いました。

学習成果の可視化、活発な議論。

1日目は、講義からスタート。まずは、地域包括ケア(在宅医療・介護・住まい・生活支援・予防などのサービスが、その地域の中で一体的に提供されること)の取り組みについて、看護学科長・竹生教授が紹介。私からは、多職種連携の概念や必要性に加えて、ディスカッションがより円滑になるようコミュニケーション論の講義も行いました。

次に、本学地域包括ケアセンターの訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・在宅歯科診療所の専門職が各事業内容を紹介しました。多職種連携を実践する附属施設があることは、本学の大きな強み。そして、今回の演習にご協力いただいた3名の利用者さんは、各事業所のサービスを実際に受けている方々です。紙の事例紹介シ



各学部学科・学校の教員と地域包括ケアセンターの専門職が、学生たちの学びサポート。



クラウド上のホワイトボードなどITを活用し、議論の活性化をはかりました。

トを読むだけでなく、利用者さんご本人の言葉を聞けること。それが、本科目ならではの特色です。「住み慣れた自宅で暮らしたい」、「自分の食事は自分で料理したい」など利用者さんの言葉が心に響き、その思いに応えたいという気持ちが生まれた、という学生の声もありました。

また、教員による評価基準も明示しました。話し合いに参加したか、メンバーに話し合いへの参加を促したか、チームの課題の達成に貢献したか、チームの雰囲気づくりに貢献したかの大きく4項目。教員は担当チーム一人ひとりの評価を毎日行いました。また、学生による自己評価シートは本学オリジナル。成績には影響せず、事前・事後で同じ項目に回答することで、グループワークに関する自

分の技能や態度がどのくらい向上したか可視化されます。教員の評価と自己評価をしっかりと共有・分析し、目的に向かって頑張れば能力が伸びる、と実感してもらえる評価モデルを目指しました。

午後には、その翌日にインタビューを受けてくださる利用者さんの事例紹介シートを配布。ご協力いただき利用者さんは3名で、3チームが異なる課題に取り組みます。事例紹介シートは、地域包括ケアセンターの専門職が日々の業務を通して作成したものをベースにした緻密な内容です。在宅サービス導入の経緯、病気や障害の程度、利用している制度・サービスなどが複数ページにわたって詳細に記載されています。

事例紹介シートを読んだうえで、利用者さんに聞きたい質問について、各チームでのディスカッションがスタート。しかし、初日ということもあり、なかなか活性化しません。そんなときのために導入したのが、クラウド上のホワイトボードシステム。自分の思ったことなどを付せんのように貼っていきチームで共有。それによって、コミュニケーションを促進する効果があります。演習開始前は、他人の意見を目にするで議論が硬直化するなどネガティブな影響も懸念しましたが、実際は誰かの付せんをきっかけにホワイトボードが埋まっていき、議論も活性化していききました。

生きた声を聞き、人間性や価値観に触れる。

2日目は、考えた質問を利用者さんご本人に聞くインタビューです。利用者さんがいらっしゃる場所は、もちろんご自宅。各チームは、地域包括ケアセンターの専門職1~2名、教員1名と代表学生1名という最小限の構成でご訪問しました。ご自宅でのやりとりはオンラインでライブ中継し、床の段差や家具の配置などもリアルに映せるよう360度VRカメラも活用。教室にいる学生たちも利用者さんと会話でき、居住環境の確認もできる状態を整えました。

インタビューの前に、まずは地域包括ケアセンターの専門職が日頃行っているサービスを実践。看護師、理学療法士、社会福祉士、歯科医師、歯科衛生士による在宅ケアの見学を通して、利用者さんとの関係性の築き方まで学べたはず。その影響もあったのでしょうか、学生たちのインタビューは、真面目で熱心なものでした。質問内容は、生活の中で楽しみにしていること、困っていること、薬の管理方法、口腔内の状態、デイケアの内容、ご家族の支援の程度、ベッドの寝心地まで多岐にわたり、利用者さんは一つひとつの質問にたいへん丁寧に答えてくださいました。

午後は、再び各チームでのディスカッション。利用者さんのお返事を整理し、各メンバーが感じたことを共有しました。代表学生も利用者さんのご自宅で

実際に見たことを報告。クラウド上のホワイトボードも駆使しながら、翌日の全体発表会に向けて考えをまとめていきました。学生たちの表情は、初日とは明らかに違いました。支援を考える、という題目にとらわれず、「自立してほしいから、何でも支援するのは利用者さんのためにならない」という本質的で素晴らしい議論も起こっていました。利用者さんの生きた声を聞き、人間性や価値観に触れたことで、モヤッとした感覚が消え、チームの思いがひとつになっていく。そんな様子を見ることができました。



オンラインで利用者さんのご自宅と教室を中継。教室にいる学生もインタビューを行いました。



利用者さんの思いを実際に聞いたことで、チームのディスカッションはより熱を帯びたものに。

多職種連携の推進を、オール医療大で。

3日目は、最終日。午前中は各チームでプレゼン資料を作成し、午後に全体発表会が行われました。教室には、22名の学生たちと20名の教員・スタッフ。加えて、オンライン中継で40名を超える学生・教職員が参加しました。学生たちの提案は、腰痛の根本治療、義歯がより馴染むような安定剤の使用、シルバーカーや車椅子の利用など、利用者さんの生きがいや困りごとに即し、保健・医療・福祉を横断する支援内容となりました。さらに、大学生とお話ができる場の創設、雪かきのボランティア支援など、自らの力になりたいという思いがにじみ



全体発表会はオンライン中継も実施。各チームが自分たちで考えた支援内容をプレゼンしました。

出した提案も。多職種連携の重要性和専門職の使命を実感してもらえたと思っています。学生たちの提案は、一人ひとりが書いた感謝の手紙とともに、利用者さんにお渡ししました。

たった3日間で全体発表までを行う、タイトなスケジュール。学生たちは大変だったでしょう、そのような感想も実際にありました。しかし、目標を明確化したうえで課題に集中できる環境をつくり、頑張ればできるようになる、と実感してもらったことが教育的な狙い。実際に多くの学生が、そのことを自分の言葉で話してくれてうれしく思っています。

そして、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間中止となった科目を、感染の懸念を限りなくゼロに近づけながら、高い演習成果を得ることができたのは、各学部学科・学校の教員、地域包括ケアセンターの専門職と利用者さんの多面的なご協力に加えて、事務局各部署の職員による全学的なサポートがあったからです。なお、感染防止対策としても効果的なIT活用については、本学のネットワーク環境の保守管理をお願いしている業者の方々にご協力いただきました。オール医療大で、本学の強みを生かした科目をつくりあげることができました。

今後は、本科目とほかの多職種連携科目との接続など、教育体系のさらなる強化をはかります。多職種連携教育に特化した学内組織の設置も必要です。そして、本学のブランド力が社会的に定着するためには、同窓会組織などを活用した卒業生ネットワークの構築を通して、卒業生ネットワークの構築を通して、卒業生コミュニケーションを促進し、臨床現場との関係性もさらに深めることが重要だと考えています。道内最大規模の医療系総合大学として、蓄積された財産を活用し、多職種連携を円滑に実践できる専門職の養成に取り組んでいきます。



心理科学部臨床心理学科 教授／
全学教育推進センター(多職種連携) 教授／IR推進センター センター長
安部 博史

東京学芸大学教育学部障害児教育教員養成課程に在籍中、心理学の面白さに魅了され、1997年、筑波大学大学院心理学研究科へ進学。脳の学習や記憶などに関する研究を行う。同研究科博士課程を修了後、2003年、研究・教育職として宮崎医科大学(現・宮崎大学)医学部へ。精神薬理学分野などの実験に携わり、心理専門職として臨床活動にも従事。医師、薬剤師、看護師などと連携してさまざまな活動を進めた経験をもとに、多職種連携に関する研究も行う。2015年、本学着任。多職種連携科目の整備や教育内容・評価の体系化に取り組むと同時に、IT活用による教育環境づくりも進めている。博士(心理学)、公認心理師。

EVENT REPORT

イベント開催報告

開催報告 /

REPORT
1

2022年度 第42回「九十九祭」を開催しました。

10月15日(土)、2022年度の北海道医療大学大学祭「九十九祭」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で2年ぶりの開催となった今年度は、学内関係者(学生・教職員等)のみでの小規模開催となりましたが、全体の来場者は約350名となり、久しぶりの大学生らしい賑やかなイベントに、参加した学生は大変楽しそうな様子でした。コロナ禍以前の大学祭を知っている大学祭実行委員がほとんどいない中で、ゼロから企画・準備を行った大学祭実行委員長の藤原健太郎さん(歯学部1年)は「他のメンバーと何度もコミュニケーションを重ね、学生支援課の皆様にもサポートしていただきながら、大きなトラブルもなく無事に終わることができて良かったです」と話していました。

大学祭の開催にあたり、徹底した感染症対策を施し、ポテトチーズフォンデュやバブルワッフルなどを販売するキッチンカー7台の出店や、学生有志によるステージ発表、大道芸人によるパフォーマンス、お笑いライブ、ピンゴ大会等が行われ、いずれも盛況のうちに終了しました。

来年度の開催に向け、藤原さんは「在学生の出店など、より学生が主体となった盛り上がりのある大学祭にするため、ぜひ来年も運営に関わっていきたいです。来年度こそはコロナ禍以前のような「九十九祭」が開催できることを願っています」と抱負と期待を語っていました。



開催報告 /

REPORT
2

全学科合同オープンキャンパスを 開催しました。

10月8日(土)、当別キャンパス・札幌あいの里キャンパスにて全学科合同オープンキャンパスを開催しました。学科横断型での実施は初となります。

「チーム医療プログラム」では、当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスをオンラインで繋ぎ、チーム医療を学ぶ本学の特徴的な講義でもある「多職種連携入門」をベースにした参加型プログラムを行いました。本プログラムは各学科の教員や在学生の協力の下でプログラムを制作。患者情報を基に、どのようなケアができるかを参加者にも考えてもらい、参加者はさまざまな職種が関わり合うことで、患者さんにとってより良いケアを実現できるチーム医療の大切さを肌で感じていました。

「学科別プログラム」では、病院や在宅医療で使用する点滴の実験や効果的なストレッチの科学的検証など、各学科の実習設備を用いた体験実習や模擬講義を行いました。その他にも、在学生ライブトークやキャンパスツアーなど、各学科とも盛り上がりを見せました。

めざす分野・職種が決まっていない参加者も、「フリープログラム」で各学科ブースに参加して各学科の特色・カリキュラムなどをまとめたパネル展や在学生・教員との交流を通して興味を持ち、その後は学科別プログラムに参加するなど、将来の進路選択を考えるきっかけをつくることができました。



開催報告 /

REPORT

3

病院ではたらく相談のしごと体験講座を開催しました。

2022年度の看護福祉学部福祉マネジメント学科主催「病院ではたらく相談のしごと体験講座」を7月23日(土)と10月1日(土)に開催しました。このイベントは、医療機関などにおける福祉の専門職で、病気になった患者さんやそのご家族に寄り添いながら社会福祉の立場から支援する「医療ソーシャルワーカー(MSW)」に焦点を当てたもので、2019年度から開催しており、今年で4年目となりました。企画・準備から当日の運営まですべて福祉マネジメント学科の在学生在が中心となり、北海道医療大学病院のMSWのほか、手稲溪仁会病院や日鋼記念病院の現役のMSWも参加し、一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会からの後援や、福祉マネジメント学科同窓会の支援のもと、対面とオンラインの同時開催で実施されました。

イベントでは、在学生と教員、卒業生で北海道医療大学病院の現役のMSWが、事前に制作した動画(北海道医療大学病院を舞台にした患者さんの面接、医師や薬剤師、看護師、理学療法士、歯科衛生士など多職種から収集した情報をもとにした相談援助の場面)を視聴しつつ、事例に対するグループワークを行いました。また、7月の開催では、対面で参加した方に大学の中を案内しながら、その様子をオンラインでライブ配信し、10月の開催では、日鋼記念病院のMSWから現場で実際に経験した相談の事例を紹介しながら意見交換を行いました。オンラインでの同時開催が利点となり道外から参加してくれた方もいました。動画や事例紹介の中でチーム医療の現場における福祉職の役割を疑似体験することで、福祉の学びの幅広い活躍の場を紹介でき、在学生にとっても参加者にとっても実りのあるイベントになりました。



開催報告 /

REPORT

4

アダプテッド・スポーツ体験会を開催しました。

8月7日(日)開催のスポーツオープンキャンパスに合わせて、アダプテッド・スポーツ体験会を実施しました。本学学生に加え、町内で障がい者スポーツ活動を行う、とうべつチャレンジクラブメンバーなどにも参加いただき、総勢10名を超える参加者となりました。ポッチャを中心に、ボールの投げ方や一歩進んだテクニックについてゲーム感覚で学び、ねらった技が成功するとみんなで盛り上がりました。その後はチームに分かれて試合形式を楽しみました。今回、初めの実施形態となりましたが、年齢や障がいなど関係なく楽しめるアダプテッドの視点から、スポーツを活用した学生や地域住民らの交流できる場、地域づくり活動の機会にもなりました。



開催報告 /

REPORT

5

大学へいこう2022 ～1日大学生～ を開催しました。

8月8日(月)、児童養護施設等で暮らす子どもたちを大学に招待をする企画、「大学へいこう」を開催しました。

本企画立案のきっかけは、本学へ来学されたケアリーバーの「今日大学の教室に座れたことは、一生の思い出だ」という一言でした。児童養護施設等で暮らす子どもは、さまざまな要因で進学ができず夢を諦めることもあります。また、将来をイメージする機会が持てず、自立に向けた動機付けにも苦労をします。

本企画は、子どもたちが『1日大学生』となり、学内散策や研究室訪問、模擬講義の受講など、大学ならではのコンテンツを通し、自分の将来を考える機会になることを目的としました。このような取り組みは、全国的にも珍しい取り組みであり、当日子どもたちは学生との交流を含め、『大学生活』を満喫していました。



株式会社 北海道医療大学パートナーズを設立しました。

2022年4月5日(火)に学校法人東日本学園100%出資の「株式会社北海道医療大学パートナーズ」を設立しました。

北海道医療大学パートナーズは、購買管理や学内広告の斡旋事業等を通じ、本学園の発展と学生サービスの向上を目的にさまざまな事業の展開を予定しています。事業活動の中で得られた利益は学園へ還元を行っていきます。

● 学生に向けたさまざまなサービスを展開

優良な提携企業先にて、卒業式袴・成人式振袖衣装や自動車免許取得など、安心でお得なたくさんのサービスの提供をしています。なお、本学学生限定の割引価格でご利用いただけるサービスもあります。

袴レンタル

自動車学校情報

不動産情報

各種保険代理

購買管理代行

引越業者紹介

学内広告斡旋

学生生活支援

そのほか、いろいろな分野での事業展開を予定しています。

大学院医療技術科学研究科を開設します。

この度、2022年8月31日(水)付で文部科学省大学設置室より、北海道医療大学大学院医療技術科学研究科(臨床検査学専攻修士課程)の設置を認可する旨の通知がありました。

大学院医療技術科学研究科は、人々の健康増進と保健医療の発展のために、臨床検査学の先進的な知識と技術を修得、実践し、かつ、応用力と自己成長ができる指導的役割を担う高度専門職業人を養成することを目的としています。23年4月に開設し、学部からの進学希望者をはじめ、臨床検査分野に携わる社会人の方々の受け入れも行います。入学者選抜の詳細(学生募集要項)は22年10月下旬に本学ホームページで公表します。



2023年度から、「特待奨学生」制度は全学部・学科を対象に大幅に拡充します。

本学独自「特待奨学生」制度は、将来活躍が期待される医療人を育成するため、特に学業成績および人物の優れた入学者に対し、経済的に支援します。

S特待^{※1}

本学と国立大学との差額相当分を免除とします。

※福祉マネジメント学科は4年間の学納金の総額が90万円になります。

A特待

授業料の半額相当額を免除します。

B特待^{※2}

授業料の4分の1相当額を免除します。

※1 薬学部・歯学部・福祉マネジメント学科のみ ※2 薬学部・歯学部・福祉マネジメント学科以外の学科

対象者の決定

各選抜区分の合格者の中から、学力試験・調査書の結果を総合して対象者を決定します。

種類	募集する選抜区分
薬学部 特待奨学生	【I期】一般選抜[前期]※1/29・30のみ、共通テスト利用選抜[前期A]
歯学部 特待奨学生	【II期】一般選抜[後期B]、共通テスト利用選抜[後期B]
福祉マネジメント学科 特待奨学生* *旧「福祉・介護人材育成奨学生」	一般選抜[前期]※1/29・30のみ 共通テスト利用選抜[前期A・前期B]
看護学科 特待奨学生	
臨床心理学科 特待奨学生	
理学療法学科 特待奨学生	一般選抜[前期]※1/29・30のみ 共通テスト利用選抜[前期A]
作業療法学科 特待奨学生	
言語聴覚療法学科 特待奨学生	
臨床検査学科 特待奨学生	

※免除期間は各学科の最短修業年限。

※同一選抜区分において複数の特待奨学生に申請することはできません。
ただし、福祉マネジメント学科特待奨学生への申請者は他学科特待奨学生への併願申請を可とします。

OG訪問

本学が日本で初めて看護と福祉を統合した看護福祉学部を開設したのは1993年。いまでは多くの卒業生が全国各地で管理職として医療の進展に貢献しています。今回ご紹介するのは、本学卒業後、一貫して精神看護の進展に力を注ぐ看護福祉学部看護学科1期生の吉野さんです。

五稜会病院(札幌) 看護部長

吉野 賀寿美さん (看護福祉学部看護学科1997年卒業)



■ チャレンジできる環境を

五稜会病院は、本学の看護、心理、ソーシャルワークの実習で学生や大学院生がお世話になることも多い精神科をメインとした病院です。吉野さんはここで看護福祉部の長として、全193床の病棟、外来、訪問看護室、地域生活支援室、デイケアセンター、医療相談室の運営、管理にあたり、看護師をはじめ優に100人を超える医療スタッフを率います。重視するのは各部門が自律的に機能する組織づくりと、そのための対応力あるスタッフの育成です。「スタッフの勉強したい、成長したいという気持ちを尊重し、応援しています。当院の看護師の多くが就職する時点で精神科看護に高い目的意識を持っているので、応援しがいがあります」と吉野さん。この「応援」には説得力があります。なぜなら、吉野さん自身がこれまで、学びたいという強い気持ちを抑えることなく、時には臨床と並行して、時には中断して、アカデミックな学びを選択してきたからです。その最初が、本学への編入学でした。

■ 臨床から大学、留学、博士号

本学に看護学科ができたのは、吉野さんが短大を卒業し看護師として働き始めた年です。道内で初めて看護の学士が取れるようになった

たことを知った吉野さんは、2年後にいったん臨床を離れて本学看護学科3年次に編入学しました。在学中に精神看護に志が定まり、1期生として卒業した後は精神看護の先進地、英国に留学、修士号を取得しました。帰国後、看護師としてキャリアを再スタートさせましたが、よりよい看護を追求したいと、今度は本学大学院看護福祉学専攻科博士課程に入学。大学院在籍中は一時臨床を離れ本学助教になった期間もあります。多忙もあって博士課程満期時に論文は間に合わなかったものの、臨床に復帰後、論文で博士号を取得しています。

■ ファミリーワークの普及へ

吉野さんはいま、臨床活動として英国で生まれ治療ガイドラインにも採用されている「メリデン版訪問家族支援(ファミリーワーク)」の日本での普及活動に力を入れています。英国でトレーナーの資格を取得して以来、養成講座を中心に支援者(実践者)の育成にあたっています。

ファミリーワークは、支援者が患者さんの家庭を訪問し、家族が揃った中で一連のセッ



人間力が問われる精神看護での吉野さんの姿勢は「病気はその人の一部であって、全部ではない」。その姿に学ぶ後輩看護師には本学卒業生や、CNS(専門看護師)を取得した本学大学院修士生もいます。

ションを行う行動療法的家族療法です。本人と家族の病気への理解を深め、コミュニケーションを円滑にし、さまざまな問題を自分たちで話し合っで決める力を家族が獲得するまでを支援します。支援を受けた家庭では、精神疾患の再発率が大きく低下するというエビデンスがあります。「3カ月から約1年と、家族によって要する時間は異なりますが、『こんな力が隠れていたのか』と感動する場面がたくさんあります。日本には家族がづらい思いをした犠牲になったりするのは当然という考え方が根強く残るので、普及活動を通して家族への支援の重要性を訴えています」(吉野さん)。

■ 「学びたい」にゴールはない

吉野さんから伝わってくるのは、「やりたいことをやる」「学びたいから学ぶ」、そして「看護が好き」という強烈な気持ちです。「いまの私があるのは、この職場が新しいことに挑戦する気持ちを尊重し、後押ししてくれたからです」と、次の世代のための環境づくりを進めながら、まだまだ自身の成長のスピードも緩めません。自分の気持ちにまっすぐに、妥協や言い訳のかけらも見せずに挑戦を続けている吉野さん。その重責や多忙を一切感じさせることなく軽やかで、楽しそうに前を向く姿がかっこいい1期生です。



2015年に英国でのファミリーワーク・トレーナー研修後にヤングケアラー支援団体を訪問した時の1枚。吉野さんは現在、ファミリーワーク普及を図る一般社団法人ジャパンファミリーワークプロジェクトの副代表も務めます。

北海道医療大学学生ボランティアネットワークが「第46回道新ボランティア奨励賞」を受賞しました。

道内で社会福祉活動に取り組む団体を表彰する「第46回道新ボランティア奨励賞」(北海道新聞社、北海道新聞社会福祉振興基金、北海道社会福祉協議会主催)の一般奨励賞8団体の一つに北海道医療大学学生ボランティアネットワークが選ばれました。

北海道医療大学学生ボランティアネットワークは、当別町社会福祉協議会などと連携し、イベントの企画・運営や高齢者向けの配食サービスを行っています。コロナ禍で活動制限がある中でも、独り暮らしの高齢者向けに「福祉冊子」を作成するなどしてストレッチ体操の方法や福祉サービスの紹介などを行っています。

4年生の小松瑞季前代表(22)は「受賞できてうれしく思っています。ボランティアの度に、地域で暮らす様々な世代の方々と活動を行い、連携を深めること

ができています。また、地域の方々やサークル部員同士での交流を深めながら、ボランティアを“楽しい”と感じることで、今まで経験したことのない活動を通して知らないうちに成長していく、そのような活動が、学生ボランティアネットワーク最大の魅力だと感じています。今後もこの良さを引き継いで、地域に貢献しながら楽しく活動してもらいたい。」と受賞の喜びと今後の活動にエールを送っていました。



第8回日本臨床作業療法学会学術大会 学生企画の部で最優秀賞を受賞しました。

5月15日(日)～29日(日)、第8回日本臨床作業療法学会学術大会学生企画の部でリハビリテーション科学部作業療法学科3年生の寺井文哉さんと宮崎大さんが最優秀賞を受賞しました。寺井さんと宮崎さんは「学生が叫ぶ!作業療法の魅力」というテーマに沿ってプレゼン発表、また、作業療法のオーダーメイドという部分に着目をして、オーダーメイド製品と作業療法の対比から作業療法の魅力や今後の課題を発表しました。

受賞した2人からは「今回の発表を通じて作業療法とはなにかを深く考え、その魅力や素晴らしさを再認識することができました。また他校の学生の素晴らしい発表から良い刺激を受けました。これからの学習や実習などから知識や技術を習得するとともに学生時代に思い描いた作業療法を大切にして大学生活を送っていきたくです。このような素晴らしい賞をいただき大変光栄に思います」とのコメントが寄せられました。

留学生に食料等の支援物資を配布しました。

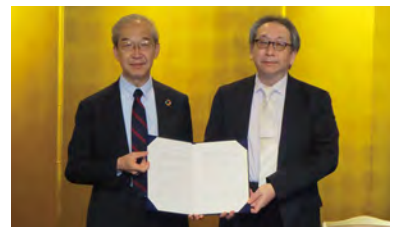
「ほっかいどう若者応援プロジェクト」から、札幌圏大学国際交流フォーラムを通じ、留学生の暮らしの応援を趣旨とした、食料・日用品の支援物資(20セット)が本学に寄贈され、6月2日(木)・3日(金)に希望した留学生に配布しました。支援品を受け取った留学生の中には、入国したばかりの学生もあり、「とても助かる」と大変喜んでいました。



近畿大学薬学部との包括連携協定調印式が実施されました。

7月1日(金)、京王プラザホテル札幌にて、「近畿大学薬学部と北海道医療大学薬学部との包括連携協定調印式」が執り行われました。調印式では、はじめに近畿大学の岩城正宏薬学部長ならびに本学の小林道也薬学部長が、それぞれ挨拶と今後の抱負等について述べ、その後調印を行いました。

本協定は、両校の持つ優れた教育、研究、地域社会との連携等の幅広い分野で相互に協力し、地域社会に貢献する人材の育成に寄与することを目的に締結され、この調印によって両大学による様々な取り組みに向けたスタートが切られました。



EDITOR'S NOTE

いつの間にか当別にも秋の冷たい空気が漂うようになりました。早いもので2022年もあと数カ月で終わります。2020年から新型コロナウイルスでさまざまな対応を迫られ、そして「ウイズコロナ」で私たちの生活も元に戻る部分もあればまだ完全に以前とは同じにはなれない状況も続いています。学生生活でみるとマスクを外せない状況で人の顔を覚えるのに一苦労すること(教員や大学の職員の皆様も含めて)、思うような教育活動ができないこと(実習内容などが学内実習になるなど)、座席が決まっていることなど、コロナ以前のノーマスク、どこでもだれとでも好きなときに会話をして食事をしてという時間がないまま卒業してしまいそうなおことにちょっと気分が滅入りそうな学生さんがいるのではないかと気になっています。ちょうど北海道医療大学が50周年を迎える時に卒業する世代がコロナ禍で入学し卒業する世代です。

私たちはこの数年パンデミックで不自由さを感じてきました。この不自由の中に置かれた状況でも人間は考え、創造し新しいものにチャレンジしてきました。その意味では北海道医療大学でこのコロナ禍を過ごした学生さんたちは医療従事者がどのような責任感をもって世界的災害に向き合うかをその道の先輩たちから学べたまたとない機会だったのではないかと思います。是非この有事に医療系の大学に在学していることをポジティブに捉え、さまざまな活動をしている先生たちからコロナ禍での医療従事者の心構えを学んでいただきたく思います。(K.O記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.179

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 志茂 剛 飯嶋 雅弘
内ヶ島伸也 奥田かおり 数谷川純子 児玉 和 今井 常晶
齊藤 恵一 長谷川純子 山形 志志 田村 至
近藤 啓 高橋 祐輔 近田 卓哉 三浦 清志
三川 清輝

発行日 ● 2022年10月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
TEL:0133-22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを北海道医療大学の教育理念とする。